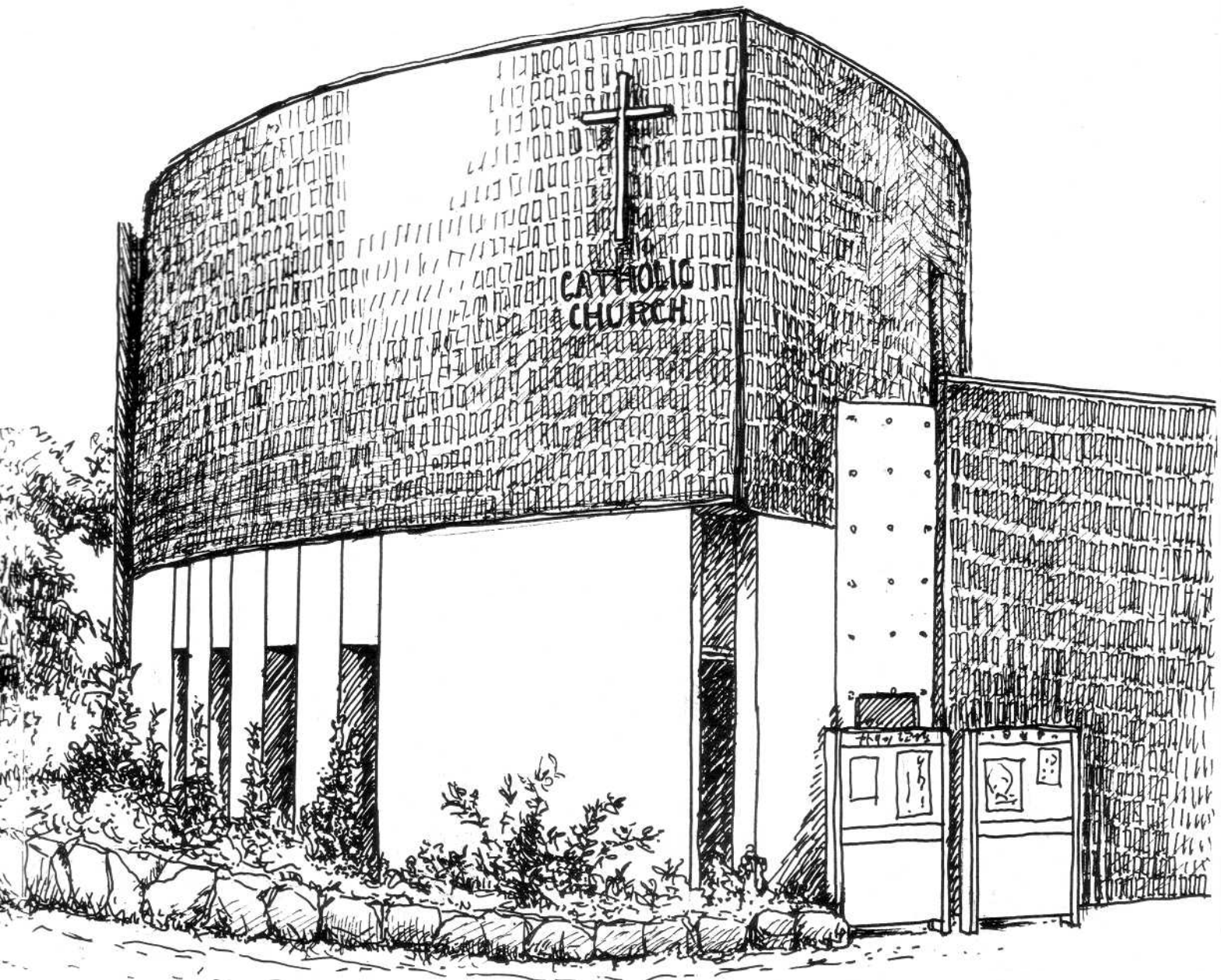


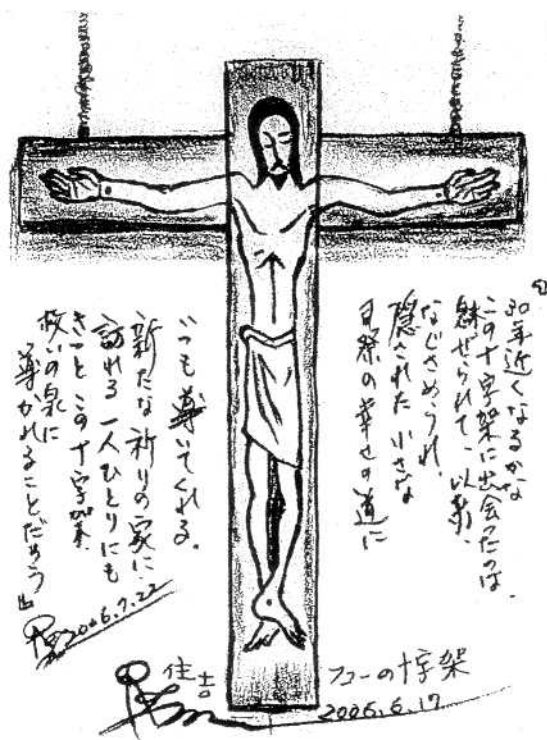
すみよし



聖句

わたしはぶどうの木で、あなたたちは枝である。
人がわたしに留まり、わたしもその人に留まるならば、
その人は多くの実を結ぶ。わたしを離れては、
あなたたちは何もすることができない。

ヨハネ 15-5



カット 松本 武三神父様

《 目 次 》

聖 句	2
教会を築く祈り	(2~3)
目 次	3
松浦司教来訪時ミサ説教より	(5)
復活祭祭壇・初聖体 写真	(6~7)
献堂式に思う	4
献堂式・パーティー写真	6
信徒総会議事録	(13~15)
教会建設特別献金の最終報告	(16)
講演会より	8
受洗にあたって	(18~19)
洗礼写真	(20~21)
2006 各チームや委員会の活動計画・評議会メンバー	(22~23)
新チームリーダーになって	(24)
青年学生チームキャンプ写真	(25)
教会学校キャンプ写真	(26~27)
バーベキューパーティー写真	(28)
信徒動静	(29~30)
教会日誌	(31)
後 記	9

題 字 千葉 健吉
表紙画 多月 弥生

太字はこのホームページ掲載 PDF ファイルのページ、カッコつきは原本のページです。

《 献堂式に思う 》

<I>

前信徒会長 HY

住吉教会が聖堂の建て替えを決定したのは1985年(昭和60年)住吉教会創立50周年の記念事業として、稲田神父様のもと老朽化し雨漏りもするようになった御聖堂を建て替える準備として建設資金の積み立てをはじめたことがスタートとなっています。その中ではバブル経済の影響で資材の高騰などの問題もありました。その積み立ても1995年1月17日、阪神淡路大震災とそれと時を同じくして教区新生計画の発表により、積立金は教区への献金により白紙状態となりました。それが再び動き始めたのは震災3教会(中央、たかとり、住吉)建設について話し合いが始まった2001年からでした。

今、住吉教会は新しい建物を得て新しいスタートを始めようとしています。しかしここまで来るのに多くの方のご心配と苦勞と心からの祈りと、ご寄付も多く頂きました。

71年前初めて教会を設立されたパリ・ミッション会の神父様方の苦勞と祈りに支えられて今があることも忘れてはなりません。私達はそのような過去と繋がりながら明日に向かってキリストの福音をのべ伝えていかなければなりません。

住吉教会の建物、器(うつわ)の中に私達、住吉教会の信徒が何を入れて主に捧げることが出来るでしょうか。器(うつわ)は盛るものです。その中身こそがこれからの住吉教会の真価が問われることになると思います。そのためには住吉教会単独では出来ないことも多々あると思います。共同司牧の中央教会、協力司牧の六甲教会、また神戸地区の教会の皆様方と協力しあいながら歩んでいきたいと思ひます。

(以上は「つながり」6月号の文章を一部変更して掲載させていただきました。)

< >

建設委員会副委員長 MS

戦災による焼失・台風による崩壊・そして大震災による大きな被害と、1935年の創設以来、住吉教会は何度も試練をくり抜きました。その都度、信徒は神の御旨を信じ、司祭のもと助け合いつつ、新たな出発を繰り返して来ました。震災より11年の今、念願の新聖堂の完成を迎え、信徒は又、大きな節目と共に新しい第一歩を踏み出そうとしています。

振り返れば、思いもかけない大震災で司祭館は崩壊、被害を受けながらも残った旧聖堂を通して、神様は私達に教会をより身近なものとして、その大切さを教えてくださいました。そして、5年前、教区より住吉教会全面建て替えの認可を頂いて、愈々聖堂建設への信徒の願ひは具体的なものとなり、以来、教会と幼稚園のあり方、そのコンセプト等につき、神父様方のお話を聞きつつ熱心な討議を続け、建設委員会は36回を重ねました。その間、新しい聖堂が信徒の信仰の集いの場、そして心の安らぎの場となるよう、また信

徒館が活動し易い場となるよう、設計者には信徒の要望を申し入れました。

2005年4月新しい幼稚園舎が完成、住吉教会と共に育ってきた星の園幼稚園は新しい園舎で入園式を迎えました。引き続き教会の建設が始まり、2006年6月17日、新聖堂の献堂式を迎えることができました。

新しい教会（聖堂、信徒館、司祭館）は、幼稚園と渡り廊下で結ばれ、正門を入ると、出会いの広場の左に教会、右に幼稚園があります。聖堂、ホール、出会いの広場は扉を開くと一体となるよう配置されています。この3つが一体となることが、建設計画に当って最初から持ち続けた最も大切な建物のコンセプトでした。

新聖堂は、新しい感覚を取入れたモダンなものとなりましたが、祭壇正面の壁には旧聖堂の十字架が取り付けられ、50年近くの間信徒が親しみ、祈りを捧げてきた十字架が、今また、新しい聖堂に引き継がれることとなりました。この十字架は、「すみよし」163号並びに献堂記念の冊子に載りましたように、住吉教会に特別の愛を注ぎ込まれたベロー神父様が、当時運賃を払えなかったため、からだにくくりつけて担いでスクーターに乗り、製作所から2号線を走って持ち帰られたアフリカで殉教されたフォーコ神父の十字架です。

座席は建物に合わせて扇形の固定席とし、前後間隔1mのゆとりをもたせました。また、清掃時などの便宜を考え、折りたたみ式としました。

簡潔な美しさで表現された旧聖堂の十字架の道行きの絵は、長年信徒に親しまれてきましたが、傷みがひどくそのままでは使用できないことが判り、この度、陶板画として生まれ変わりました。この14枚の絵はベロー神父様が住吉教会の信徒、故網谷義郎画伯を通して新制作協会の画家、中島節子さんに依頼されたものです。この方は小磯良平画伯の弟子で、その作品が小磯記念美術館に収納されています。陶板にするに当り美術館を通してその使用許可をご遺族より戴き、献堂式後に取り付けられました。尚この費用は、聖堂建設に当りベロー神父様から頂戴致しました貴重なご寄付を当てさせて頂きました。

小聖堂には聖櫃が置かれています。この聖櫃はパウロ神父様がスペインで購入されたもので、キリストと12使徒がロマネスク風の美しいレリーフで表されています、日曜以外のミサは小聖堂で捧げられ、また一人で静かに祈りするのにふさわしい雰囲気です。

ステンドグラスも、聖堂後部の高窓と小聖堂にクリスマスまでには取付けられる予定で、祈りの空間がより豊かになることを願っています。

建設委員の一員としてこの大事な計画に参加させて頂き、この間、工事関係の方々には随分いろいろなことを申し入れ、さぞ「教会のうるさいオバサン」であったであろうと自認しております。新教会完成を大きな感慨と共に迎えることができました今、私達の希望を取り入れてくださいました日本設計、松井建設の方々に心から感謝申し上げます。

また、この建設にあたり多大なご支援を戴きました大阪教区、近隣の教会のみなさまに心から御礼申し上げます。

今、私達信徒は今までに持ったことがないような立派な建物を戴きました。開かれた教会として神戸地区、東ブロックの方々のみならず、広く近隣の皆様とのつながりと憩いの場となりますよう信徒一同努力して行きたいと願っております。

(この文章は「つながり」2006年6月号と、「竣工・献堂記念」誌に掲載されました文章に加筆したものです)

《献堂式おめでとうございます》

2006・6・17(土)



この日を待ちわびました





たくさんの神父様方に祝福されて



チャイルドルームも満員

《 講演会より 》

社会活動チーム

先日バンバン神父様のお話を聞く機会があり、とてもよかったので皆様にお伝えします。(神父様は2年前まで六甲教会におられ、その後アメリカのボストンへ社会福祉の勉強に行かれて、この度帰国されました。)

アメリカの社会的背景について

黒人差別はキング牧師などの運動によって制度上はなくなったけれど、深いところでは依然として「ある」という事。それに加えて移民、不法滞在、ヒスパニック系の人々への差別、それらが複雑にからみあってホームレス、母子家庭、麻薬、アルコール、エイズなどの問題を引き起こしているという事。ただ、アメリカ社会には差別がある一方、それら社会的弱者についての施策も(公的なもの、NGO、ボランティア的なものも含めて)非常に手厚く、実際に神父様もホームレスの十数家族を入居させるシェルターで働かれたそうです。入居させる必要があればすぐに入居させる一方で、麻薬、アルコール禁止、子供に教育を受けさせる事、そして働く事等のとても厳しい条件があり、破るとすぐに出されるとの事でした。

ケアについて

貧しさの連鎖は実際続く事が多い。虐待されて育った子供は又、自分の子供を同じように扱う。それを断ち切る為にはやはりケアが、「愛」あるもの...彼らと共感し、精神的充足感を体験させるものである事。それがなく精神的ストレスの多い人が麻薬やアルコールに頼ってしまう。私たちは社会的背景など大きなマクロな面も勉強しつつ、一方、一人一人へのその場のミクロなかかわりに、心を込めて関わっていかねばいけない。

以上のようなお話を伺って、最後に参加者で少し分かち合いました。現在の日本もアメリカと同じようになりつつあり、子供達は家庭に居場所を失って、夜の街にホームレスとして(ハウスはあってもホームはない)たくさん出てきており、そこには悪の手が待ち構えている・・・という話が出ました。



《 後 記 》

20年前頃、(その頃は広報チームという名前はありませんでしたが)Aさんがお元気で、Kさん、Mさんのおふたりが「すみよし」の発行に尽力なさっておられ、印刷は外注の時代でした。校正のお手伝いに伺うようになり、夜更けに昔の司祭館のお玄関の横のお部屋で校正をしたことを懐かしく思い出します。

それから長いような、あっという間のような年月が過ぎました。思いもかけなかった大震災を機に「すみよし」は自分達の手で編集、印刷、発行するようになりました。それはパソコン、印刷機、コピー機などの目を見張るような発達のおかげだと思います。これらの機器を使いこなし「すみよし」、その他の広報に託された仕事をさせて頂きたいと思うのですが、なかなか難しいものです。

思いがけなくリーダーの任をお与えになった神様に祈ります。

「教会の皆様のご協力を頂き、若い方たちも参加して下さい、新しい器にふさわしい元気なチームとして働く事が出来ますように」

橋本

「すみよし」第169号

発行日： 2006・8・15

編集・発行： 広報チーム

編案責任者： 竹内 和美

発行所：神戸市東灘区住吉宮町 2-18-23

カトリック住吉教会'

TEL： 078-851-2756

FAX： 078-842-3380

<http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp>

製版・印刷： 信徒有志

週報「風」の係りから2度目の「すみよし」担当になりました。前はワープロ、この度はパソコン。印刷機もA3対応の新機種。できるかな?と一瞬思いましたが、新しい事に次々挑戦なさるすばらしい前任者を目標に。

「神共にいます」ケ・セラ・セラで...

教わりながら、手伝っていただきながら次の方にバトンタッチする時はベテランとよばれたいと希望を抱きつつチーム手作りのこの小さな冊子が皆様に読んでいただけますように、又、教会の「あゆみ」を刻んでいきますようにと願っています。

竹内